

# おにがまこふん 鬼釜古墳 現地公開資料

(財)長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター  
TEL 026-293-5926

## 1 調査の概要

- ・遺跡名：鬼釜古墳（鬼釜遺跡）
- ・調査場所：飯田市上久堅<sup>かみひさかた</sup>1930-11 番地ほか
- ・調査原因：国土交通省飯田国道事務所による国道474号飯喬道路<sup>いいたか</sup>（仮称飯田東インターチェンジ）建設工事
- ・調査期間：平成23年4月11日～11月30日（予定）
- ・調査面積：16,300 m<sup>2</sup>

## 2 遺跡の位置と地形

鬼釜遺跡は、天竜川の東側、飯田市上久堅地区にあります。

遺跡は玉川によって形成された扇状地に立地し、遺跡の北側が玉川と接しています。遺跡内の地形は、①玉川に沿う自然堤防<sup>しぜんていぼう</sup>、②自然堤防背後<sup>ていち</sup>の低地、③低地背後<sup>りゅうろあと</sup>の流路跡にわかれており、今回の調査では、①自然堤防上から縄文時代（約4,500年前）、古墳時代（約1,500年前）、平安時代（約900年前）、中世（約400年前）<sup>いこう いぶつ</sup>の遺構と遺物がみつかりました。



写真1 鬼釜遺跡・鬼釜古墳全景（東から恵那山方向を臨む。  
平成23年撮影）

## 3 鬼釜古墳の調査成果

鬼釜古墳は鬼釜遺跡のなかみ<sup>なかみ</sup>にあり、玉川に沿う自然堤防上に立地します。古墳の規模は直径20m弱（周溝の外側上端で計測）、古墳の形態は円墳<sup>えんぼん</sup>、出土土器から古墳の時期は6世紀と推定されます。久堅神社地には鬼釜古墳の石室と伝わる石（天井石・側壁石）があり、その石の大きさからみて、石室の形態は横穴式石室<sup>よこあなしきせきしつ</sup>であったと考えられます。

この鬼釜古墳は、墳丘<sup>ふんきゅう</sup>はすでの残っておらず、墳丘が盛られていた場所には近世の陶磁器を含む層（以降、近世以降の盛土と呼称）が堆積していました。この近世以降の盛土からは、高坏<sup>たかつき</sup>などの古墳時代の土器のほか、<sup>まがたま</sup>勾玉1点・<sup>くだたま</sup>管玉5点、小玉41点、<sup>じかん</sup>耳環2点の装飾品や鉄鏃<sup>てつぞく</sup>（武器）が出土しました。これらの遺物は、本来古墳の石室内に副葬<sup>ふくそう</sup>されていたと考えています。また、近世以降の盛土の下層には、石室の奥壁<sup>おくへき</sup>



写真2 鬼釜古墳の空中写真（平成23年撮影）白丸は周溝想定地

に使われた石と思われる大きな石が1個（写真4）と、石の近くで不整形の穴が数基（写真4）みつかりました。穴からは、明治時代と思われる陶磁器片、管玉、古墳時代の土師器片が出土しました。奥壁石（長辺約130cm、短辺約100cm、厚さ約30cm、想定重量約800kg）と思われる石は、浅く掘りこんだ穴に倒したものの、まわりの穴は石室の石を抜き取るために掘った穴と推定されます。出土遺物から近世以降に石室の石が抜き取られたと推定されます。

残念ながら鬼釜古墳の石室は原形を保っていないことがわかりました。しかし、奥壁石と思われる石と石を抜き取るために掘った穴の分布からすると、石室は墳丘が盛られていた場所の中央にあり、さらに石室（羨道部と玄室）は東西方向に向いていたものと推定されます。

また、周溝に埋まる土を掘ったところ、須恵器の甕や壺、土師器の高環などの土器が集中する場所が3ヶ所みつかりました（写真2の○印部分）。これらの土器は、死者を葬る際に行った祭祀に使用されたものと思われます。



写真3 出土した耳環



写真4 奥壁石？出土状況（写真上）と石室の石を抜き取ったときに掘ったと思われる穴（写真下）

## 4 馬の埋葬土坑（第174号土坑）の発見

- ① 発見場所：古墳周溝の東部。
- ② 検出状況：周溝に埋まる土の下から確認。  
古墳の被葬者が葬られた時と同時もしくは追って埋葬されたものと推定。
- ③ 平面形状：長方形
- ④ 規模：長辺1.95m、短辺1.10m、深さ1.30m
- ⑤ 出土遺物：鉄製の馬具（鞍金具<sup>しおで</sup>2点、辻金具〔雲珠？〕<sup>うず</sup>1点）、土師器の小片
- ⑥ 時期：周溝底面から出土した遺物から6世紀
- ⑦ 遺構の特徴：周溝の縁に沿う状態で掘られている。
- ⑧ そのほか：第174号土坑に近接して、2基の土坑（第186・187号土坑）が見つかる。3基の土坑は、周溝の縁に沿ってならぶ。第186・187号土坑は規模・形状ともに第174号土坑と異なる。



写真5 馬の埋葬土坑の全景（北から臨む）



写真6 馬具と土師器片の出土状況

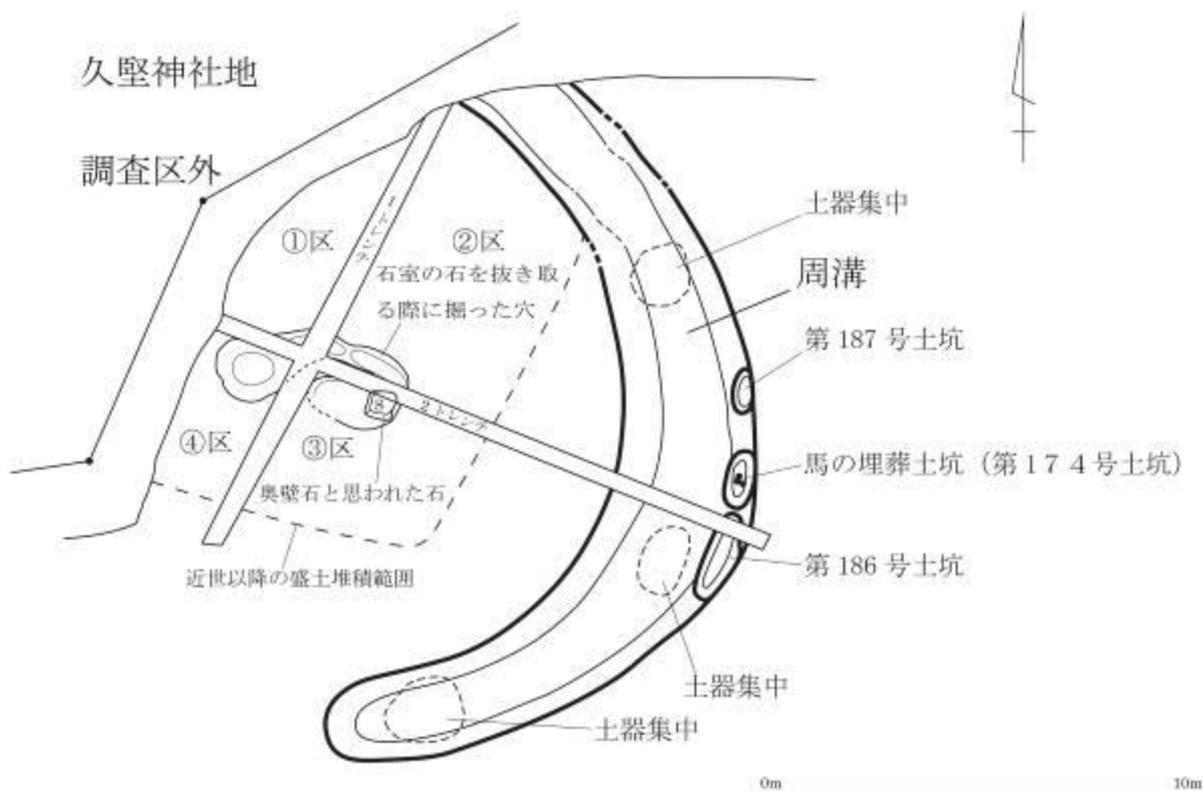


図1 鬼釜古墳の略図と馬の埋葬土坑の位置

## 5 飯田市とその周辺における馬の埋葬土坑発見例

(飯田市教育委員会 2007『飯田における古墳の出現と展開』より)

- ① 新井原・高岡古墳群 (飯田市座光寺) : 3 基 (単独土坑)
- ② 高岡 4 号古墳 (飯田市座光寺) : 1 基 (周溝内土坑)
- ③ 新井原 2 号古墳 (飯田市座光寺) : 3 基 (周溝内土坑)
- ④ 宮垣外遺跡 (飯田市上郷) : 6 基 (単独土坑 4、周溝内土坑 1、周溝内 1)
- ⑤ 物見塚古墳 (飯田市松尾) : 1 基 (周溝内)
- ⑥ 茶柄山 9 号古墳 (飯田市松尾) : 8 基 (周溝内土坑)
- ⑦ 茶柄山古墳群 (飯田市松尾) : 3 基 (単独土坑)
- ⑧ 寺所遺跡 (飯田市松尾) : 4 基 (周溝内)
- ⑨ 北林 5 号古墳 (高森町) : 2 基 (周溝内土坑 1、周溝内 1)

土坑の時期は、飯田市域の例が 5 世紀、高森町の例が 7 世紀である。馬の骨 (推定を含む) は 29 例から、馬具は 5 例 (内 1 例は周溝内) から出土している。土坑の位置は、①単独土坑、②周溝内土坑、③周溝内の 3 種類があり、鬼釜古墳の馬の埋葬土坑は、「周溝内土坑」に該当する。

## 6 第 174 号土坑の発見の意義

- ① 下伊那において馬の埋葬土坑は、天竜川以西で発見されている。天竜川以東では初めての発見。
- ② 6 世紀以降の事例としては、北林 5 号古墳 (高森町) について 2 例目。
- ③ 6 世紀代に上久堅地区で馬の生産・飼育が行われていた可能性が浮上。
- ④ 馬の生産・供給体制の変遷を考える上で貴重な発見。



写真 7

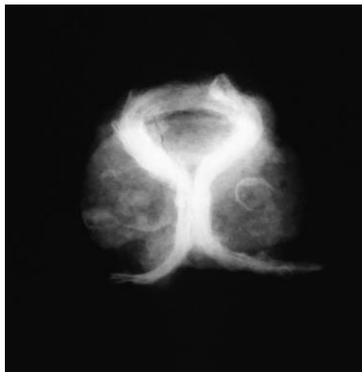


写真 8

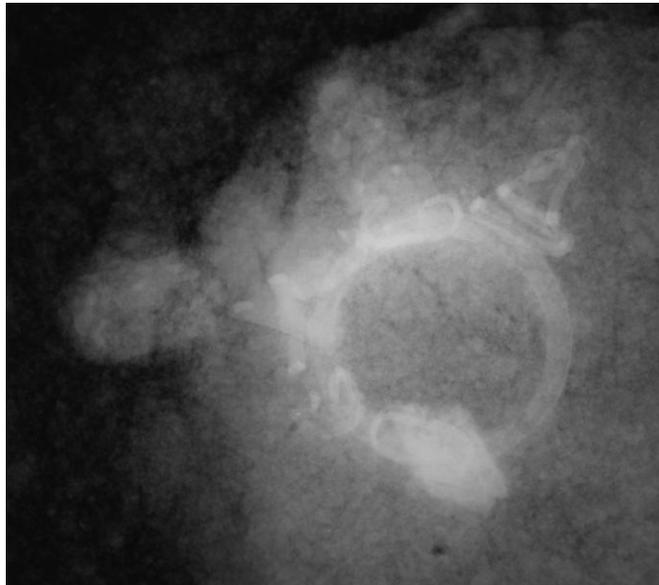


写真 9

写真 7・8・9  
馬の埋葬土坑から出土した  
馬具の X 線写真  
(7・8: 鞍金具、9: 辻金具)

長野県埋蔵文化財センター  
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4  
TEL (026) 293-5926 FAX (026) 293-8157  
E-mail info@naganomaibun.or.jp

インターネット(最新の情報はこちらから)

長野県埋蔵文化財センター

検索

<http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/>

